

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	辯論部々報 : 部報
Author(s)	伊藤, 正義
Citation	龍南, 250 : 103 - 103
Issue date	1942-02-15
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/8497
Right	

辯論部々報

伊藤正義記

十一月末日を以て私の辯論部幹事としての仕事は終つた。我々の辯論部も龍南人諸兄の熱心なる協力を得て有意義な一年を終ることが出来た。誠に感謝に堪へぬ次第である。

行事としては名士招待會、春秋兩大會、四高專大會、中等大會と大体豫定のコースを辿り得たわけである。主催する中等學校優勝辯論大會は今年は特に縣内に限られて、開催しうるかどうかと危ぶんだのであるが、辯士九名に對して聽衆百數十名といふ近年稀な盛況ぶりであつた。

總てが國策に順應して行く様にとの方針のもとに進んだために格別に改新と名のつくこともしなかつたが、一貫した覇氣だけは失はなかつたつもりである。努力は遂に實を結んで三十數名の同志を得て部員制に迄漕ぎつけた。此から先尙一層部員一同の結束の必要なるは言ふ迄もない。

對米英開戦と共に一億國民ひとしく覺悟を新たにしなければならぬ時が來た。一日たりとも偷安は宥されぬ。我々も戦線に銃を執る氣持で眞剣に思想戦に参加せんとするものである。事態が深刻となればなるだけ我々の辯論を通じての報國の道は愈々開けて來るものと考へねばならぬ。後進諸君の健闘を祈るや切なるものがある。

名士招待講演會 二月八日 於瑞邦館

「我國經濟の現勢」 九大教授 波多野 鼎氏

春秋辯論大會 六月廿五日

一、流轉する世に處して 文二甲三 提 康弘

一、世界史と現代 文三甲二 池尻 文二

一、民族と人類性 文三甲二 内藤 健

一、正しき學問的方法 文三甲二 西角 肇

一、復興印度に期待するもの 文三乙 小松 正和

秋期辯論大會 十月廿五日

一、會澤正志先生と新論 文三乙 小松 正和

一、日本の世界史への登場 文二甲一 内田 健三

一、すめらの道 文一乙 長澤 亮太

一、物を見る「眼」 文三甲三 池尻 文二

一、日支民族性の相違 文二甲三 吉本 淑彦

一、我日本の柱とならん 文三甲一 森本 正美

四高專辯論大會 十一月九日 於醫大講堂

本校代表

一、日支民族性の相違 吉本 淑彦

一、日本の世界史への登場 内田 健三